



受賞のことば

「卵で人と社会を幸せにする」
受賞を新たなスタートに皆さまに喜んで
いただける商品づくりを続けていきます

山形県天童市 (株)半澤鶏卵

このたびは、令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会において賞を受賞し、心より感謝申し上げます。

このような貴重な機会をいただきましたこと、また山形県畜産協会の皆さまにご推薦いただきましたことに、深く御礼申し上げます。日頃よりご指導・ご支援を賜っております関係者の皆さま、そして私たちの取り組みを支えてくださる地域の皆さまに、心から感謝申し上げます。

今回の受賞は、私一人の力によるものではなく、社員一人ひとりの不断的努力の積み重ねによる成果であると受け止めております。日々の地道な取り組みが評価という形で実を

結んだことは、大きな励みであり、今後の事業推進に向けた確かな支えとなりました。

弊社では、大手企業との競争環境の中で生き残りをかけ、卵の生産・加工・販売を一体で行う6次産業化に取り組んでまいりました。今後も「卵で人と社会を幸せにする」という経営理念のもと、安全で高品質な生卵および加工品の提供に努めるとともに、信頼される対応と価値あるサービスの実現を目指してまいります。

今回の受賞を新たな節目と位置づけ、これからも皆さまの期待に応えられる商品づくりと事業活動を継続してまいります。引き続き、変わらぬご支援とご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

大手との価格競争の中、生き残りをかけて 6次産業化に挑戦した採卵鶏経営

農林水産省畜産局長賞 / (株)半澤鶏卵 (採卵鶏経営・山形県天童市)
(公社)山形県畜産協会 加藤 修一

経営・活動の推移

(1) 経営の推移

現会長の父が昭和35年に創業し、約500羽の採卵養鶏と卵の販売を開始したが、昭和45年に養鶏業を廃業し鶏卵卸売専門に特化した。

父から経営移譲を受けた前年の平成16年に鶏卵生産調整が撤廃され、大手の県外採卵鶏業者が安値で山形県に参入し価格破壊が起き、県内の採卵鶏業界は大混乱に陥った。これまでと同様に、鶏卵の消費県というメリットを生かした鶏卵卸売業だけでは会社経営が成り立たず、付加価値の高い鶏卵生産を行い、流通・販売することが必要と考えた。ちょうどその頃、県内の養鶏会社より廃業に伴う農場譲渡の相談があり、そこで働く従業員を引き受けることで生産体制を早期に整えることができると考え、採卵鶏経営の再開による生き残りを決断した。

(2) 採卵鶏経営の再開

経営再開にあたっては、大手との価格競争に対抗するため、付加価値の高い鶏卵を生産することを方針として掲げた。

平成19年に東根市の羽入農場を取得し、採卵鶏飼育規模約2万羽で再スタートした。地域の名前

と携わる全ての人と、ここで生産した卵を食べた消費者がしあわせになるようにと願いを込めて、「出羽の郷しあわせファーム」と名付けた。

その後、平成30年に河北農場を引き受け、令和元年に村山農場、東根大森農場を開設し、現在の生産基盤を確立した。

経営・技術の特色等

(1) 高付加価値化 ①純国産鶏種への転換

大手採卵鶏業者は、生産性が高い外国産鶏種を飼養し、低コスト・大量生産を行っている。当社では自社生産卵のブランド価値を高めるため、純国産鶏種の「さくら」と「もみじ」に注目し、外国産鶏種から徐々に切り替え、令和元年に純国産鶏種100%となった。

(2) 高付加価値化 ②飼養環境のこだわり

自社4農場では、それぞれの立地や施設の特徴を生かして、鶏卵の生産を行っている。鶏にストレスを与えないように配慮することで、新鮮でおいしい卵を生産している。



(写真1) 村山農場の平飼いの様子



(写真2) こだわりの原料を使った飼料

河北農場では、県内唯一の「エンリッチャブルケージシステム」(アニマルウェルフェアに配慮した飼育)を導入した。また「パドクーリングシステム」を導入したことで、ケージ内の温度が上昇する夏場も鶏舎内を一定温度に保ち、快適な環境で卵を生産している。

村山農場は、鶏が自由に動き回れる平飼いで、かつ1坪(3.3m²)当たり10羽という広いスペースでアニマルウェルフェアに配慮した飼育環境となっている。

(3) 高付加価値化 ③飼料のこだわり

「さくらたまご」は、遺伝子組換え作物の混入を排除した原料を使用し、さらに「平飼い卵 高揃」は抗酸化作用の高いアスタキサンチンや、卵に味とコクを与える成分を加え、黄身の色が濃いのが特徴のブランド卵として商品化している。

トウモロコシの代替として、県内産の飼料用米を給与したものは、黄身が白いのが特徴で、「いではのさくら白(別名:お米卵)」として食味および栄養価を高めた付加価値の高いブランド卵として販売を拡大している。

(4) 生産性の高い経営

鶏種、飼育環境、飼料にこだわって生産しているが、生産技術もより高いレベルを目指して、日々の管理にあたっている。

令和6年度は、採卵鶏飼養羽数43,086羽、採卵鶏100羽当たり年間鶏卵生産量1,858kg、飼料要求率2.08と高成績である一方、鶏舎1m²当たり9.1羽と非常に少なく、ゆったりとした飼養環境で高い生産性を実現している。

雛は、令和3年まで自社で幼雛育成していたが、120日齢の大雛導入に変更したことで、育成鶏の事故率改善が図られ、さらには導入から産卵開始までの期間が短縮し、生産性も改善された。

(5) 耕畜連携による飼料用米利用拡大

平成29年に村山地域採卵鶏生産強化クラス

ター協議会を設置し、地域の稲作農家や農協、民間業者と連携し飼料用米の利用拡大を促進した。河北農場では地元の稲作農家2件と農協、民間業者が飼料用米の流通契約を締結し、令和2年度には目標値の6haを達成した。東根農場も民間業者の仲介により農家と契約した。その結果、令和6年度は2農場合計で18.1haの飼料用米の契約を締結している。

(6) 安全安心への取り組み

鶏卵の生産から加工販売までを行う企業として、安全性の確保と消費者からの信頼を得られるよう努めている。令和3年に東根羽入農場と河北農場の2農場で農場HACCP認証を取得した。他の2農場も準じた管理を行っている。

加工部門では、令和5年にスモッチファクトリーがHACCPに準ずる食品安全管理規格JFS-B認証を取得した。

(7) 新鮮でおいしい鶏卵の販売体制の確立

鶏卵のおいしさは、新鮮な流通が第一と考え、自社で2カ所のGPセンターを設置した。生産した鶏卵は全自動で洗卵・選別され、その日のうちに自社直売所での販売や加工原料に振り向けられている。また、消費者が新鮮な卵をいつでも購入できるように、卵の自動販売機も設置している。

(8) 6次産業化 ①半熟燻製卵「スモッチ」

卵の付加価値を追求する中で、卵の加工に取り組み、半熟燻製卵「スモッチ」を開発した。国際特許の燻製機を使い、じっくり燻製、熟成させることで、黄身の中まで風味がある商品に仕上がった。全国放送のテレビ番組で取り上げられるなど、評判となり当社の看板商品に成長した。

その後も地域の企業と協力し



(写真3) 半熟燻製卵「スモッチ」



(写真4) 直営販売店「いではCOCCO」

ながら、さまざまな商品開発を進め、卵かけしょう油やチキンジャーキーなどの商品が誕生している。

(9) 6次産業化 ②加工品製造・直営販売店

自社のこだわりの卵を販売する拠点として、平成30年に「いではCOCCO」をオープンした。鮮度の高い卵を販売するほか、カフェでは自社卵を使った料理やスイーツを提供している。併設の加工施設では、ガラス越しにスモッチの製造の様子を見学することができる。

令和5年、地元の天童市に2店舗目の「高揃テラス」をオープンした。ここでは卵のPR・販売のほか、アニマルウェルフェアの取り組みについて消費者へ普及啓発している。

6次産業化を進める中で、大きな投資判断も必要であったが、自社ブランドを高め、付加価値の高い卵や加工品を販売し、消費者に直接アピールできる場を持てたことは当社にとって大きな財産となった。

(10) 海外輸出の取り組み

令和3年から海外輸出を本格的に開始した。日本食ブームを追い風に、香港やハワイ、シンガポールへスモッチを輸出しているが、特にシンガポールは高度な衛生管理が必要であり、当社は鶏卵加工品を輸出できる数少ない企業の一つとなっている。

地域に対する貢献

当社養鶏場の増加や自社直売所の整備等も

あり、毎年のように職員採用を行っており、過去3年間で29名の従業員を採用している。

耕畜連携により、飼料用米の利用拡大を促進し、農場で発生した鶏糞は堆肥化して地域の農家に安価に販売している。

地域のにぎわいを創出したいという思いから、いではCOCCOでは「休日マルシェ」を開催し、多種多様な業態のお店が参加し、地域交流の場を提供している。

女性の活躍・働きやすい 職場環境づくりの取り組み

当社は女性の割合が約6割で、年代や生活スタイル、家庭の事情に応じて勤務時間を決めているほか、再雇用しやすい環境づくりにも取り組んでいる。

実績のある女性は、役員や特別販売課長、農場の管理責任者として登用し、各部門のリーダーとして活躍してもらっている。

将来の方向性

持続可能な採卵鶏経営には、外的要因に左右されない強い経営基盤が必要である。これまで、自社農場で生産したこだわりのある卵を中心に、加工、販売、海外輸出と展開し、強固な経営基盤が構築できた。また、6次産業化の推進は、消費者との接点を拡大することができ、市場価格に左右されない自社ブランドが確立できた。

経営の理念として掲げている『卵で人と社会を幸せにする』を実現していくために、これからも新しいことにチャレンジし続け、時代に左右されない独自性のある経営スタイルを確立させていきたい。

(かとう しゅういち・(公社)山形県畜産協会業務課主査(畜産コンサルタント))